

# 伊豆半島東方沖の海底火山に関する統一見解

平成元年10月27日

気 象 庁

## 伊豆半島東方沖の海底火山に関する火山噴火予知連絡会統一見解

7月13日の海底噴火以降、火口からはなお火山ガスや熱水の噴出が見られるものの、現在まで噴火はなく、微動も7月21日を最後に観測されていない。この間地震活動はさらに低下し、9月末にはほぼ今回の群発地震前の状態に戻った。また、体積歪計や傾斜計等には顕著な異常は見られなかったが、水準測量及び辺長測量等では変動が続いている。

これらの観測データから、現時点では今回のマグマ活動は一応静穏化したと考えられる。しかし、過去繰り返されている群発地震活動、長期間にわたる地殻変動等からみて、この地域では長期的にマグマの集積が続いていると考えられる。

このため、今後の活動に備え、観測体制の強化を図りつつ、引き続き厳重な監視を続けると共に長期的な警戒が必要である。

(平成元年7月に発表した統一見解及びコメントは、火山噴火予知連絡会会報第44号を参照のこと)